

# 平成24年度 学校自己評価システムシート（県立羽生高等学校）

目指す学校像	不登校等の課題を抱えた生徒の基礎学力・集団生活力を養い、社会的自立を実現するとともに地域の生涯学習機関として貢献できる学校。
--------	--

重点目標	<p>1 生徒として望ましい授業態度の育成に努めるとともに、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の向上と問題解決力の充実を推進する。</p> <p>2 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実に努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>3 生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※ 学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	4名
	事務局（教職員）	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 （ 1 月 3 1 日 現 在 ）	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○基礎学力や学習意欲に差がある生徒を抱えた中、学校に対する期待も年々多様化してきている。	授業改善による学力の向上	①授業の中で「学び直し」の要素を工夫する。 ②年度を通して、年次集会等を積極的に挙げる。 ③部活動の加入を奨励する。 ④公開授業を充実させる ⑤学習支援員を活用する。	①生徒アンケート ア 授業は分かりやすいか。 イ 教え方に工夫はあるか。 ②基礎学力向上のための方策を実施できたか。 ③各年次での実施内容 ③部活動加入率 ④公開期間中の来校者数 ⑤学習支援員を活用できたか。	①肯定的評価率 H24 (H23・H22) ア 60%(58%・54%) イ 69%(60%・57%) ①研究授業や授業研修会を実施し、授業改善の意識が高まった。 ②1年次→4・6・1月に各1回実施 （生活の心得・遠足事前指導・アドベンチャー教育） 2年次→総学・LHRにて各担任より 3年次→4・6月各1回、11・1月各2回実施 （生活の心得・修学旅行事前指導・進路関係） 4年次→4・6・1月に各1回実施（卒業に向けて） ③部活動加入率 29.6% ④213名；保護者 212名 その他1名 ⑤学習支援員による個別相談・TT指導を延べ120回実施中。	B
	○日々の授業の大切さを十分認識できていない生徒がいる。	進路実現の明確化	①就職支援アドバイザーを活用する。 ②新学習指導要領を生かした受講指導の改善に努める。 ③面接や模擬授業を活用する。	①面接の実施及び進路意識の啓発ができたか。 ①進路希望調査で未定者が減少したか。 ②進路指導につながる受講指導ができたか。 ③面接や模擬授業を活用できたか。	①就職支援アドバイザーによる個別面談の実施。 進路意識の啓発に努めた。 進路決定者数 37名。進路決定率 52%。 ①進路未決定者、H24は 24.2%（H23は 27.0%）と減少傾向。 ②生徒向け受講資料に授業内容・難度を示した。 また、教員向け指導事例集を作成した。 ③就職支援アドバイザーによる面接練習の実施。進路分野別模擬授業を受講した 50%の生徒が、授業内容に肯定的なアンケート結果となった。	○多様化する期待の内容の重点化と対応 →基礎学力向上のための授業計画・授業内容の改善 →授業力向上のための研修会・授業公開の実施 →年次毎の指導総括の実施 →部活動参加の奨励 ○授業の大切さを認識させる →進路情報の効果的な提供 →アルバイトの奨励 →受講指導の徹底 →個別面談・就職支援アドバイザー活用継続
2	○本校の教育の特色を伝える広報活動を充実させる必要がある。	情報発信機能の多様化	①「羽高だより」に学校行事や教育相談の欄を設けて、保護者への案内を充実させる。 ②HPをより魅力あるものにし、適時適切な情報発信を行う。	①保護者への周知と参加状況 ②HPのアクセス数が増加しているか。	①文化祭保護者参加状況（一般・卒業生等を含む） H24は 265人（H23は 318人） 保護者のアンケートから、93%が周知状況を、86%が学校との連携状況を肯定。 ②アクセス数 H24は月平均 4174件（H23は 6232件）	B
	○生涯学習機関としての役割を更に発展させる。	開かれた学校づくり	①全教科について科目履修講座を開講するよう努める。 ②特別講座、学校公開講座を充実させる。	①科目履修講座への問い合わせ状況 ②受講人数、講座数	①現在は、国語（国語表現I）、書道Iで延べ4名が受講している。 ②特別講座 2講座（カサハラ 20名、マルチメディア 13名） 学校公開講座 6講座（延べ 27名）	○情報通信機器を活用した広報 →「羽高だより」・HPの更なる活用 ○生涯学習に関する講座等の更なる充実
3	○不登校等、対人関係で課題を抱えている生徒がいる。	教育相談の充実	①問題行動により指導を受けた生徒にスクールカウンセラーとの面談を勧める。 ②担任等による個別面談の機会を増やす。 ③コミュニケーションスキルアップに取り組む。 ④「保護者の集い」の実施方法について工夫・改善する。 ⑤県内外の取り組み事例を研修する。	①スクールカウンセラーと連携し生徒が落ち着き、問題行動の再発防止が図られたか。 ②各年次での実施状況 ③講習会等を実施し、人間関係づくりに関するアンケート結果 ④参加しやすい日程等を検討し実施できたか。 ⑤研修会の実施または情報共有が図られたか。	①スクールカウンセラー等との面談を実施、問題行動の再発の防止が図られた。 ②年度当初に生徒全員に個別面談を実施した。その他、夜間部も含め随時実施している。 ③外部関係機関と連携し、昼間部 1年次で「アドベンチャー教育プログラム」を実施（62%が満足）。同様に、昼間部 2年次・夜間部 1年次で「読み聞かせ指導」を実施。 ④平日午後の日程であったものを再検討し、第2回は土曜日に開催した。 ⑤県外の特別支援教育に関する先進事例の視察研修を 2回実施。7月に第1回 2名参加、11月に第2回 9名参加。第1回は報告書で情報共有し、第2回は報告会を実施した。	A
	○社会性に欠けた生徒、生活習慣の改善が必要な生徒がいる。	生徒指導の徹底	①巡回指導を継続する。 ②過去の資料を分析し予防的な生徒指導を実施する。	①問題行動の発生件数の推移 ②過去の分析結果を生徒指導に生かされたか。	①PTAや警察とも連携し、校舎内外、通学路、羽生駅周辺で巡回指導を実施した。現在、特別生徒指導は 5件（前年同期 24件）。 ②過去 6年間の分析結果をもとに、生徒指導部により時期に応じた予防的な指導体制がとれた。	○教育相談体制の充実 →各年次と校内分掌及び外部関係機関との連携強化 →個別面談の機会の充実 ○生徒指導の徹底 →予防的な生徒指導の実施

実施日	平成25年 2月 1日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・羽生高校は不登校経験者や中途退学者の救いになっている。中学校や高校でつまづいた生徒を立ち直らせる手助けをしてくれるアットホームな学校である。</li> <li>・生徒アンケートの集計結果に、「教員がしっかりと準備してから授業をしてくれる」とある。非常によい。</li> <li>・高校生になってもまだ進路を考えていない生徒がいる。できるだけ早く目標をもつことが大切である。職場体験、体験授業、各種説明会、各種検定の受験など有意義だと思う。進路を意識させるのは難しいかもしれないが、指導してほしい。</li> <li>・昔の羽生高校生は企業で貴重な人材として求められていたため、事業主の手厚い保護、協力があつた。学校教育にも熱心であった。今日では、家庭での教育力の観点から学校に対する期待は大きい。</li> <li>・「井の中の蛙」であってはならない。できるだけ社会と触れ合う機会を増やしてほしい。</li> <li>・羽生高校には様々な魅力がある。もっとアピールしてほしい。</li> <li>・時代の変化に伴い羽生高校の役割が変わってきている。学び直しに価値を見出してほしい。</li> <li>・文化祭の土曜日開催を知らない人が多かった。保護者や地域への情報発信に工夫がほしい。</li> <li>・教育相談体制が整えられている。</li> <li>・「保護者の集い」で学校と密接に関わられてよかった。このような行事にもっと保護者の参加が増えれば更によい。</li> <li>・人間関係づくりやコミュニケーションスキルの向上などの取り組みを継続して実施した方がよい。</li> <li>・通学マナーが改善されるなど全体的にマナー向上が図られていると思う。</li> <li>・データ分析を踏まえた予防的な生徒指導の成果がすばらしい。</li> </ul>